

第 150 回日本医師会臨時代議員会報告



理事 白井 和美

3月27日(日)、日本医師会館と各県医師会をWEBで結び、2年ぶりに従来の方式で日本医師会臨時代議員会が開催された。中川会長は、挨拶の中で今回の診療報酬改定に触れ、新内閣発足後時間のない中の折衝で、当初のマイナス改定からプラス改定へ変更できたことに関し、決して満足ではないが一定の評価が出来ると述べられた。

議事は、すべて原案通り承認され、続いて代表質問が行われた。新型コロナ対策関連の質問では、これまで2年間多大な努力で各種対策・発熱外来・ワクチン接種などに対応してきた現場からの経営面、精神面、肉体面での悲鳴が聞こえて来るようであり、今後も政府に支援を求め続けて頂きたいものと思った。次いで、大阪や埼玉で医療者が殺害された痛ましい事件に関連し、再発防止に向けた警察との関係構築について、広島県が好事例を紹介し、日医としても

プロジェクト委員会を立ち上げるとされた。診療報酬改定関連では、オンライン初診とリフィル処方箋に関する質問が出た。特にリフィル処方箋については、患者指導等への影響に関し、多くの県から懸念の表明が相次いだ。執行部からは、リフィル処方箋の採用は医師の判断で、医師がしっかりとこれまで同様の患者指導、健康観察を行えば問題が起きにくくなるという説明された。また、後発医薬品メーカーの不正に端を発する薬品供給不足については、医療費適正化計画に基づき後発医薬品の使用率を引き上げ続ける政府方針への危惧が表明され、担当役員からは薬剤師会・薬品卸と連携し適切に対応したいと回答があった。

また、会長挨拶に関連した質問では、本体のプラス改定に関して、コロナ診療に関わる看護師の給与引き上げや、不妊治療等、使用目的が定められた予算を含める形となったことに疑問の声が上がった。また、オンライン初診とリフィル処方箋導入に関する議論が中医協でほとんど行われなかったことに対し、中医協の場が形骸化することへの強い危機感が述べられたが、これは、今回の改定が時間的に大変無理のある中に行われたことが大きな原因と考えるとの回答があった。

2年ぶりの従来方式の開催で、代議員側に期待感が大きかったためか、予定時間を大幅に延長し、活発な議論の応酬が行われた。担当役員の回答は概ね満足のゆくものであったが、それらを聞くにつれ、医療政策の決定には、特に今回のような時間的な制限が厳しいなど特殊な場合には、政治的な決着が行われるとのことで、医政への取り組みの重要性を痛感した会議であった。

第 150 回日本医師会臨時代議員会

日時：令和4年3月27日(日) 午前9時30分
場所：日本医師会館
東京都文京区本駒込2丁目28番16号
(テレビ会議システムにより開催)

会次第

1. 開会
1. 会長挨拶
1. 報告
令和4年度日本医師会事業計画及び予算の件
1. 議事
第1号議案 令和3年度日本医師会会費減免申請の件
第2号議案 日本医師会定款・諸規定一部改正の件
第3号議案 医の倫理綱領一部改定の件
1. 閉会